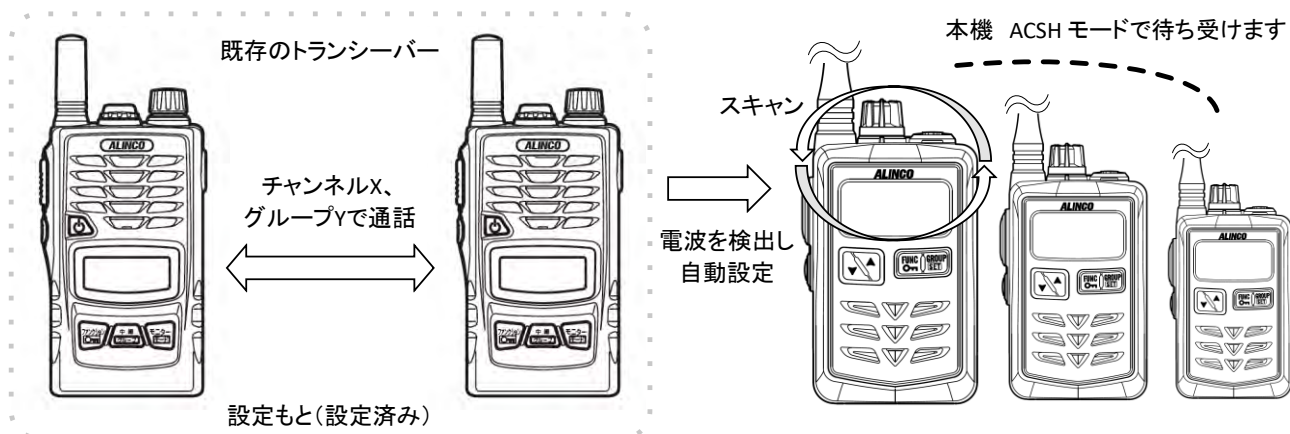
DJ-P322 その他の機能について

● ACSH モード

既に使用しているトランシーバーのチャンネルとグループ番号を検知して、本機に同じものを自動設定する機能です。手作業の手間と設定間違いが無くなるのでるので、多くのトランシーバーを使われる業務用途にはとても便利です。交互通話と中継通話、どちらにも対応でき、特定小電力トランシーバーであれば弊社製、他社製を問わず設定もと（設定済み）になるトランシーバー（以下、親機）にできます。

【操作前の注意】

・ACSH の自動設定は、外来電波による誤判定を防ぐため近距離でおこなってください。

・電波を検知し「ピピ」と鳴ってからは電源を切らないでください。正しく設定されないことがあります。ACSH モードを途中で停止したいときは電源を切ってください。故障の原因にはなりません。

・ACSH で設定中は親機のマイクに音声が入らないようにご注意ください。送信信号が乱れて判定できないことがあります。

・グループ番号のトーン周波数が近いものは動作が不安定になったり、誤判定したりすることがあります。（例：01・番「67.0Hz」と 39・番「69.3Hz」など）数回リトライしても ACSH できないときは、グループ番号を 01～38 番の範囲に設定してお試しください。

・グループトーク機能に DCS を使っているときは ACSH できません。

【ACSH の操作：交互通話（単信)】

ACSH モードで自動設定するトランシーバー（以下、本機）と、親機を準備します。親機はあらかじめ電源を入れておきます。

① 本機の電源を切った状態で【GROUP】キーを押しながら電源を入れ直します。【GROUP】キーを放さずに約 7 秒間押し続けます。ディスプレイに「ACSH」表示が点滅し、「ピピピピピ」という音が鳴ります。この状態になったら【GROUP】キーを放します。

② 既にご使用中の親機を送信状態にして、本機に検知させます。数秒から最長で 2 分程度の時間がかかります。

メモ）複数を一度に ACSH できます。親機は PTT ホールド機能やイヤホンマイクの送信ロックを使って自動送信させておき、ACSH したい本機に全て、①の操作をします。

③ 電波を検知すると「ピピ」と鳴り、設定が完了すると

ディスプレイに「oooooo」が表示されて「プルル」音が
鳴ったあとで自動的に再起動します。

④ 再起動後、本機は親機と同じチャンネルとグループ番号になり、簡易キーロックがかかります。
本機と親機が正しく通話できるかテストしてください。テストが終わったら電源を切るか、実用
してください。

メモ）後から手動でチャンネルやグループ番号を変更する際は、FUNC キーを長押しして簡易キーロックを解除してください。FUNC キーを押しながら電源を入れる簡易リセットをすると ACSH で自動設定した内容を消去(初期化）できます。

【ACSH の操作：交互通話中継器（半複信)】

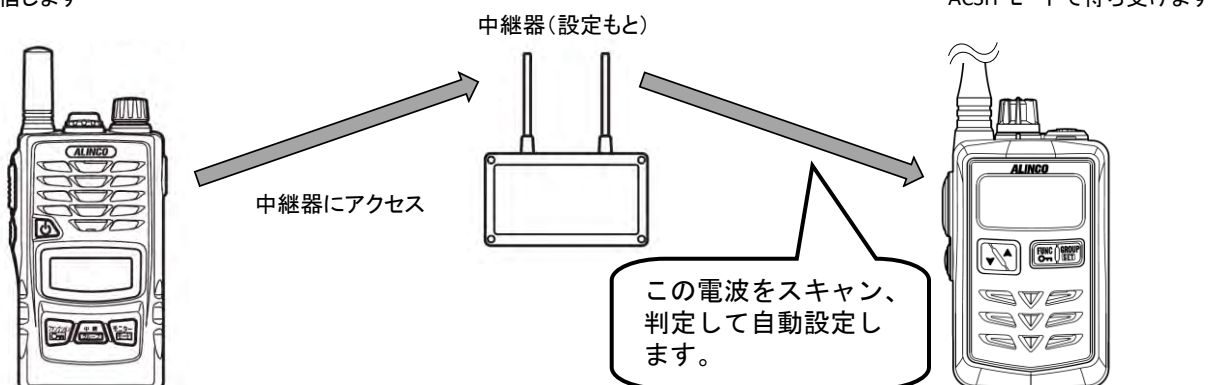
中継器 ACSH 時のご注意：

・中継器の周波数帯を A（440MHz 帯送信）に設定している場合は、自動設定できません。弊社製の中継器とトランシーバーは敢えて初期設定を変えていない限り、この周波数帯設定は気にせず ACSH できます。

・外来電波（他の中継器）による誤検知を防ぐため、ACSH 操作は中継器の近くでおこなってください。

・中継器からの電波をスキャンするときも使用前のご注意にあるグループトーンの相性問題が起こることがあります。起こりにくいトーンは 10～38 番です。

操作：

操作は前章と同じです。但し中継子機の ACSH は、親機では無く中継器が送信する電波を受信します。本機を前章①の操作で ACSH モードにして、親機から中継器にアクセスします。中継された電波を本機に受信させてください。

●デュアルオペレーションモード（DO モード）

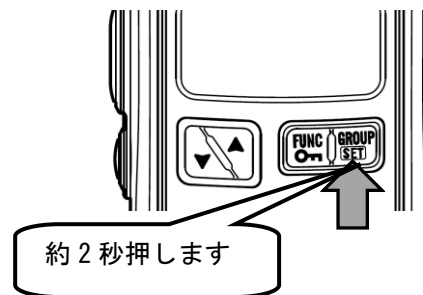
いつも使うメインとは別に、サブ用のチャンネルを登録しておくと、1 秒ごとに２つを交互に受信し、そのどちらとも通信することができるようになります。本機では、PTT も２つ搭載しているので、任意に２つのチャンネルにアクセスできます。

【設定前のご注意】
1：サブ側をメモリー登録する際は、セットモードの EmG 項目（緊急通報機能）は OFF にしておいてください。
登録後は設定を ON にして緊急警報機能を使うことができます。但し、チャンネルの状態にかかわらず緊急通報は常にメイン側で発報されます。

２：メイン側とサブ側が同じチャンネルだと、「E」表示が点滅して DO モードは動作しません。必ず別のチャンネルに設定してください。

【設定】

① サブ側チャンネルをメモリー登録する

本機を操作して、サブ側にしたい内容に合わせます。
終わったら【GROUP】キーを約 2 秒押します。「b writE」と表示され、登録されます。
サブ側には、メインとは別に下記の設定が登録できます。
中継チャンネルも登録できます。
・チャンネル　・グループ番号（DCS も登録可能）
・コンパンダー　・秘話機能のオンオフ（本体セットモードで選択された秘話周波数を使います。DO 専用に別の秘話周波数をメモリーすることはできません）

② メイン側チャンネルを設定する

本機を操作して、メイン側にしたい内容(チャンネル番号、トーン番号など)に合わせ、【PTT】キーを 1 回押します。
電源を切れば設定は終わりです。

※常にデュアルオペレーションモードを使うときは必ずキーロックしてください。(【FUNC】キー長押しで鍵アイコン点灯)
ロックしておかないと、再起動したときに通常モードに戻ります。

【運用】

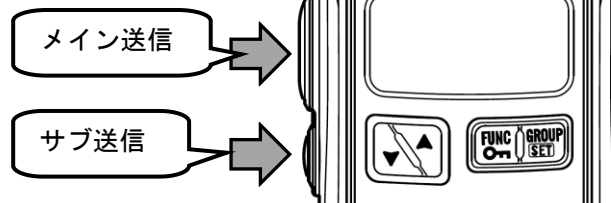
デュアルオペレーションモードにする

【▼】キーを押しながら電源を入れます。

→「dUAL」と表示され、メイン側を「A」、サブ側を「b」として交互受信（スキャン）が始まります。信号を受信するとスキャンが停まり、そのチャンネルを受信します。信号が消え、別途設定した時間が過ぎるとスキャンを再開します。（初期設定は約５秒）

⑤送信する

初期設定では【PTT】キーを押すとメイン側、【サブ PTT】キーを押すとサブ側で送信できます。
セットモードの「サブ PTT キー割り当て」でサブ PTT キー以外の機能を割り当てていると、【PTT】キーを一度押すとメイン側、「ポン、ポン」と続けて二度押しするとサブ側で送信します。

→通話が終了して設定時間（初期値約５秒）が過ぎると交互受信を再開します。

⑥デュアルオペレーションモードを終了する

キーロックしていないとき：電源を入れ直します。
キーロック中：電源を切っても DO モードを保持しています。DO 運用中にキーロックを外し、電源を入れなおせば DO モードを終了できます。いずれもリセットしない限りサブ CH は記憶しており、▼キー操作を繰り返せば DO モードで運用できます。

●リモコンモード

1 台の DJ-P322 をリモコンとして使い､対応中継器のチャンネルやトーン等の設定を遠隔操作で変更できます。中継器 DJ-P101R､DJ-P111R ､DJ-R200D､DJ-U3R に対応しています｡DJ-R200D は､別売の AC アダプター､EDC-122 が必要です。

【設定前のご注意】

・DJ-P101R/111R 中継器は、内部にある設定スイッチを全て下側（初期状態/OFF 側）にしてください。
スイッチで設定されているときは、リモコン機能は動作しません。
・DJ-R200D は予め中継器モード（５）にした後、拡張セットモード 57 番「中継設定リモコン受付」を ON にして AC アダプターで電源を入れておきます。
・DJ-U3R は初期状態では電源を入れるとすぐに設定モードになります。事前操作はありません。
設定済の DJ-U3R も下記の操作をすれば新しい設定に上書きされます。
・予めリモコンに使う DJ-P322 の操作を一通り行い、チャンネル、トーン、セットモード機能などが設定できるように慣れておきます。中継器の説明書のリモコン設定説明も一読してください。

①中継器の電源を切る

AC アダプターのプラグをコンセントから抜いて電源を切ります。

②リモコンモードにする

【▲】キーを押しながら電源を入れます。
→「rEnCon」と表示されたあと「r」が点滅します。

メモ）もしリモコンで設定が変わらないときは、内部スイッチの位置を確認してください。

③ 転送する内容を DJ-P322 に設定する

・中継に使うチャンネルとグループトーン番号を本機に設定します。
必要に応じて、自動接続手順、ハングアップタイマー、アラームの各機能もリモコン設定できます。これらの機能の詳細は予め中継器の取扱説明書をご参照ください。

中継器の機能も設定したいときは引き続きお読みください。
不要であれば次のページの④からお読みください。

リモコンモード中にセットモードにする

【F】キーを押しながら【GROUP】キーを押します。
→「At-on」が表示されます。
【GROUP】キーを押すごとに項目が切り替わります。
「At-on」→「HuP-00」→「AL-oF」

・自動接続手順「At」の設定

初期状態は ON に設定されています。
中継器側を OFF にする場合、本機の設定も OFF にしてください。

・ハングアップタイマー「HuP」の設定

初期状態は 00(0 秒)に設定されています。
0 秒/0.5 秒/1.0 秒/2.0 秒から選択します。
送信が終わっても、設定したタイミングの時間は中継動作を継続します。

・アラーム機能「AL」の設定

初期状態は OFF に設定されています。
ON にすると中継動作の終了をビープ音でお知らせします。

【▲】【▼】キーを押して選択する

ON/OFF/または設定値を選択します。

【PTT】キーを押す

【PTT】キーを押すと設定値が反映されます。

④転送する

【PTT】キーを約 2 秒押します。「ピピッ」音が鳴り、中継器への転送がスタートします。
転送中は「SEnd」が表示されます。

ALINCO
FUNC GROUP SET
約 2 秒押します

⑤中継器の電源を入れる

DJ-P322 が転送状態になったら中継器の AC アダプターをすばやく
コンセントに挿します。転送中は「Send」が表示されます。

数秒後、転送が完了すると「〇〇〇〇〇〇」が表示され、
本機から「プルル」音が鳴ります。

メモ）転送完了後、中継器は自動的に再起動します。
再起動後 20 秒間は初期化がおこなわれ、
その後中継器として使用できます。

⑥本機の電源を入れ直す

中継通信モードに戻り、中継器を介して通信することができます。

●最適チャンネルサーチ

DJ-P322 で通話できるチャンネルをすべて自動受信（サーチ）して、使用頻度を表示できます。お使いになる環境であらかじめこの機能を使って使用頻度の少ないチャンネルに設定すれば、混信しにくくなります。

① 最適チャンネルサーチモードにする

【▲】【▼】キーを同時に押しながら電源を入れます。

「bStScn」と表示されたあと「L01.　0」表示され、チャンネルが 0.5 秒
ごとに自動的に切り替わり、受信信号が有るかどうかサーチします。

② 本機を一時的に設置する

通話する人が一番多いエリア、または通話したいエリアの中央に立てて
置きます。最低でも１０分程度スキャンされることをお勧めします。

③ スキャンを止める

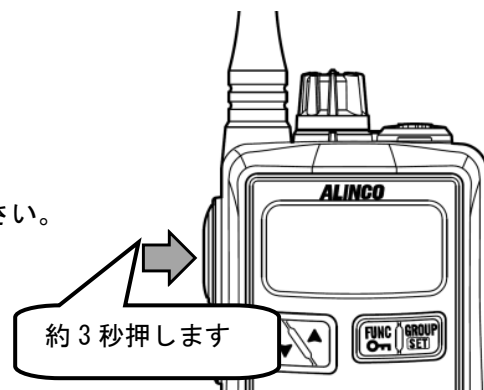
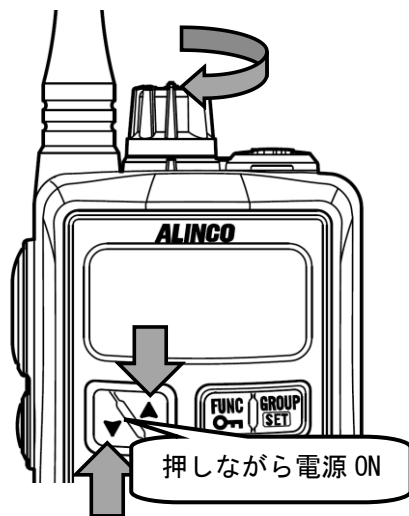
【PTT】キーを約 3 秒押します。「プププ」音が鳴ってチャンネル
サーチが止まり、「L01.（数値）」が表示されます。

使用頻度を確認する

【▲】【▼】キーを押して、チャンネルを切り替えていき、
チャンネルの右側に表示されている数値を確認します。
数値が大きいほど使用頻度が多く、低いほど小さくなります。

メモ）再度サーチを行う場合は、もう一度【PTT】キーを約 3 秒押します。
その場合、現在の測定結果は初期化されて消えますのでご注意ください。

通話モードに戻る

本機の電源を入れ直して通話モードに戻り、使用頻度が「0」の
チャンネルに設定します。

【精度の高いサーチをする】

中継器を設置するなど、なるべく長く決まった設定を使いたいときは、より精度の高いサーチをお勧めします。

・通話エリア内に、離れた複数の多用場所（厨房とホール、レジとバックヤード…）があるときは全部の場所をサーチしてください。片側のエリアだけが混信を受けることがないか、確かめるためです。

・周囲に特小無線を使いそうな場所（スーパーや量販チェーンなど中規模店舗、飲食店、クリニック、ヘアサロン、ケータイショップ、工事現場…）があれば、それらの営業時間に合わせてサーチします。時間帯を分けて複数回サーチすればさらに効果的です。

【ご注意】
・窓際や通話エリア内で一番見通しの良い場所に置くと、遠くからの外来電波も拾いやすくなります。実用エリア内では混信を受けなくなることもありますが、目安として「ここは使っている可能性が高いな…」の判断がしやすくなります。

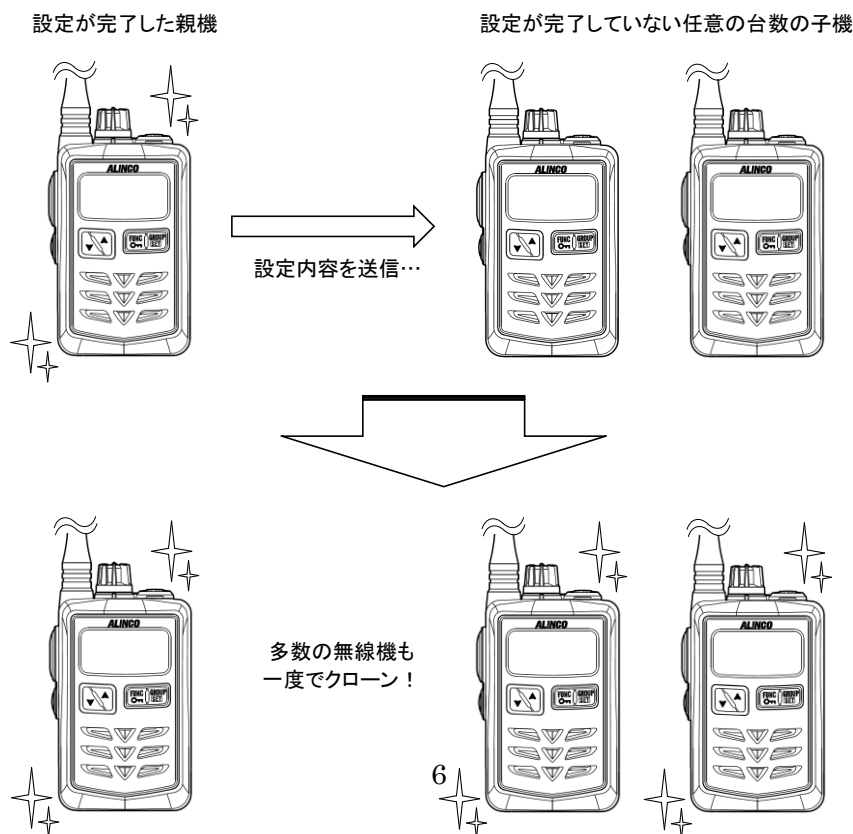
・本機能はあくまで空きチャンネルを見つける目安としてお使いいただくものです。時間や曜日、場所によってサーチの結果が変わることがあり、たまたま近くでその日だけ通話するグループがあった、というようなこともあり得ます。このため、サーチによる空きチャンネル判定の精度は保証できません。

・使用頻度が高いと判定されたチャンネルの上下のチャンネルは、使用頻度が「0」でも実用を始めると混信しやすい可能性があります。「0」が離れたチャンネルにもある時はそちらを選んでください。
（例：L05 に使用頻度が高い数値が出たら、L04、L06 の頻度が低くても避ける。L07,L08,L09 もゼロなら L08 を選ぶ方が混信の可能性は低くなる。）

・チャンネル「L01」「b01」「L10」「b12」はメーカーを問わず初期値のチャンネルに設定されがちです。このため、このまま使うユーザーが非常に多いことから、これらのチャンネルはサーチの結果にかかわらず避けておくことをおすすめします。

・サーチ中はバッテリーセーブが働かないため、電池の消耗が早くなります。電池残量に余裕のある状態で行ってください。また、サーチ後に通常モードに戻す時は新品（充電完了）の電池に交換することをおすすめします。（セットモードで敢えて変更していない限り、通話モードに戻るとバッテリーセーブも動作します。）

●エアクローン

設定済みの DJ-P322（以下、親機）から他の DJ-P322（以下、子機）に、無線で親機のチャンネル情報、セットモード情報の全ての設定内容を送ることで、任意の台数の子機を一度に同じ設定にする（クローンする）ことができます。複数の DJ-P322 を使い始めるときや、混信などで設定を変更するときにとても便利です。

①　親機を準備する
エアクローン用の親機を１台、説明書に従って手動で実用状態に設定します。

② 親機と子機の状態、通信環境状態を確認する
親機も子機も減電池警告が出ていないことを確認して　電源を切ります。
親機も子機もなるべく近くに集めて強い電波で受信できるようにします。
電波環境が悪いと設定内容が正しくクローンされない恐れがあります。

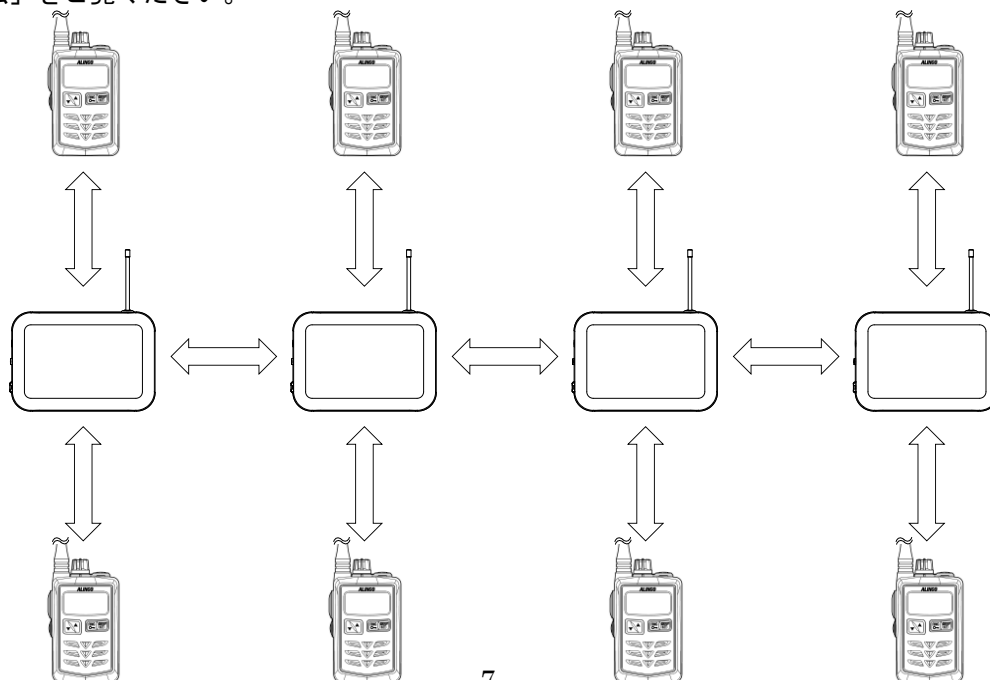
③ 親機と子機をエアクローンモードにする
本機の電源を切った状態で【GROUP】キーと【F】キーを押したまま
電源を入れ直し、そのまま放さずに約 7 秒間押し続けます。
ディスプレイに「AirCLn」表示が点滅し、「ピピピピピ」という音
が　鳴ります。この状態になったら、両方のキーを放します。
この操作を親機とすべての子機で行います。

④ 設定情報を送信する
親機の【PTT】キーを 3 秒間押し続けると設定情報の送信が始まります。「ピピ」という音が鳴り、「 Air-ru」の 表示が点滅します。点滅が始まったら【PTT】キーを放します。子機は親機からの設定情報を受信すると「ピピ」という音が鳴り、「Air-」と数字の「00」の表示が点灯します。設定が進むにつれ数字が増え、すべての設定情報の受信を完了（数字「08」を表示）すると設定が完了するとディスプレイに「oooooo」が表示されて、「プルル」音が鳴ったあとで自動的に再起動します。

④　子機をチェックする
再起動後、子機は親機と同じチャンネルになり、簡易キーロックがかかります。
子機と親機が正しく通話できるかテストしてください。場合によっては簡易キーロックを解除して、親機と同じ設定内容になっているかを確認してください。テストが終わったら電源を切るか、実用してください。

【ご注意】
・エアクローンは、外来電波による誤判定を防ぐため近距離でおこなってください。
・設定が誤操作などで変わってしまったときは、正しく動いている個体を親機にして、改めてエアクローンしてください。手動で設定を復元するよりはるかに簡単です。

・レストア機能で保存した内容はクローンされません。手動で個別に登録してください。

●連結中継モード
DJ-P322 は中継器を複数台使って通話エリアを拡大する「連結中継モード」の子機として使用できます。中継器には連結中継器モード対応の中継器（DJ-U3R など）をお使いください。
また、連結中継子機モードにした本機を、連結中継器の設定をするためのリモコンとして使用します。本機のような連結中継リモコン設定対応機でないと操作できません。リモコンによる設定方法は後述の「②連結中継器の設定変更方法」をご覧ください。

【特徴】
・最大 4 台までの中継器を無線連結させて、特に直線方向に通話距離を大きく伸ばすことができます。子機は自動で最寄りの中継器にアクセスするため、中継器に合わせてチャンネルを変える必要がありません。

【注意】
・子機は最適な中継器を探してスキャンするので、通常のバッテリーセーブより電池の消耗が早くなります。このため通常の交互通話中継時より電池は早く減りますが、異常ではありません。
・連結中継モードは、一般的な中継対応トランシーバーでは設定も通話もできません。本機のような、この機能に対応するトランシーバーが必要です。
・設置に関する説明と注意点は、中継器の取扱説明書をお読みください。正しく設置しないと誤動作します。

① 連結中継子機モードにする

1.【F】キーを約 2 秒間長押しして簡易キーロックをかけます。キーロック後ディスプレイに「🔑」が点灯します。

2.簡易キーロック後 10 秒以内に【GROUP】キーを４回、さらに 【F】キーを４回続けて押します。キーを押し終わると「ピピ」音が鳴り、交互通話モードから連結中継子機モードに切り替わり、ディスプレイに「LK-A1」が表示されます。

参考：交互通話や中継子機モードに戻したいときは、もう一度同じ操作で元に戻ります。もしくは簡易リセットでこのモード変更を含めて設定内容を初期化できます。

② 連結中継器の設定変更方法
連結中継子機モードに設定された DJ-P322 は、必要に応じて連結中継器モード対応の中継器（DJ-U3R など）の設定を変更することができます。中継器の設定変更には DJ-P322 を 1 台、使用します。

1.「拡張セットモード説明書」の 29～31 の項目を変更できます。ただし基本的には初期値から変更する必要はなく、通常はこの操作はする必要はありません。初期状態が最適な設定となっており、意味が分かって変更しないと、故障と思うような動作をしますので十分にご注意ください。

2.連結中継子機モードではあらかじめグループ化された A～H の 8 つのチャンネルグループを１つ選択して使います。全ての DJ-P322 と中継器を同じチャンネルグループに合わせます。

・DJ-P322 の【F】キーを押しながら【▲】【▼】キーを押して A～H のグループを選びます。
メモ：チャンネルグループ A は初期状態の設定のため多用されます。チャンネルグループ A 以外を選ぶ方が混信を受けにくくなります。

3.リモコン機の中継器自動スキャン機能を止めます。

・DJ-P322 の【GROUP】キーを押します。中継器自動スキャンが止まると点滅している「.」（ドット）マークが点灯に切り替わります。

4. 【▲】【▼】キーを押して 1 台目の中継器に割り当てる番号「1」を選択します。

2 台目以降、連結する台数分の中継器番号を「2」～「4」に切り替えて同じ操作をします。2 台目は「2」、3 台目は「3」、4 台目は「4」にします。この番号は設置の時も重要になるので、中継器に目印を付けるなどして間違えないようにしてください。

5.リモコン機の【GROUP】キーを 3 秒間押し続けるとディスプレイに「rm-」とチャンネルグループと中継器番号が点滅して、設定内容の転送が始まります。

6.転送が始まったら速やかに AC アダプターをコンセントに挿して中継器の電源を入れます。リモコン機からの設定用信号を受信し始めます。

7.設定内容の転送が終わるとリモコン機のディスプレイに「〇〇〇〇〇〇」が表示され、「プルル」音が鳴ります。１台目の中継器に設定が反映され、設定が終わります。

8.連結する台数分の中継器を同じ要領で初期設定します。4.の中継器番号を「2」「3」「4」番まで、使用する台数に合わせて設定して、7.まで操作を繰り返します。例えば 3 台連結する場合は、それぞれ中継器番号が「1」「2」「3」と表示されます。

9.全ての中継器の設定が完了したら、リモコン機の【GROUP】キーを押して中継器自動スキャン機能を ON に戻します。「.」（ドット）マークが点滅に変わり、このまま通話用の子機として使えます。「.」（ドット）

マークが点灯中は正しく通話できません。

連結中継子機に使う DJ-P322 を全て、「①連結中継子機モード変更方法」の手順で連結中継子機モードにして同じチャンネルグループに合わせます。このとき中継器番号を設定する必要はありません。連結中継子機を 4 台使うなら 4 台に同じ操作をして「LK-A1」と表示させます。
これで通話のための設定は終わりました。正しく設定できたかどうかの取りあえずの通話実験は、1 番と 2 番の中継器があればできます。3～4 番機は中継器番号さえ間違っていなければテストする必要はありません。
DJ-P322 の使い方は次の「③連結中継子機モードでの通話・中継器スキャン」の項目をご覧ください。
10m 以上離して 2 台の中継器を仮置きします。子機すべてを使い、2 台の中継器の周りを移動して中継通話ができることを確認します。距離が近いとシステムが干渉し合い、ノイズが乗ったりつながりにくかったりしますが、声が聞こえていれば設定はできたと判断できます。
テストが終わったら、中継器の AC アダプターを抜きます。中継器の説明書を参照して運用場所に正しく設置します。再び AC アダプターを挿すと、20 秒後に前回設定した状態の中継器モードで起動します。この 20 秒の起動中はセットモードになっているので、近くで DJ-P322 を含む無線機類を一切送信しないでください。設定が誤って変更されてしまう恐れがあります。

③ 連結中継子機モードでの通話・中継器スキャン
DJ-P322 の【PTT】キーを押し続けると、送信が始まります。このとき中継器へアクセスするまでの間、「ピピピ」音が鳴ります。【PTT】キーを押し続けたまま、アクセス音が鳴り終わってからマイクに向かって話します。受信側の DJ-P322 は、ディスプレイに が点灯し、送信側からの音声がスピーカーから聞こえます。通話を終わるには【PTT】キーから指を放します。DJ-P322 に PTT ホールド機能を設定していると一度【PTT】キーを押すだけで送信になり、もう一度押すと受信待ち受けに戻ります。【PTT】キーを押し続けなくて良いのでハンズフリーに近い状態で通話できます。通話をしていないとき、DJ-P322 は最寄りの中継器からの信号を受信して、その中継器へのアクセスができるように自動的に設定を合わせます。ディスプレイにはアクセスする中継器番号が表示されます。

以上

アルインコ（株）電子事業部